

彼女が離婚で 得たもの & 失ったもの

岡野あつこ

第130回

意地の張り合い



自己主張するのは悪いことではありませんが、それが強すぎると周囲と軋轢を起こすことが多くなるもの。それは、職場でも家庭でも同じです。男女は平等ですし、自分が正しいと思うことを主張するのは当たり前のことです。ただ、自分を主張するのと同時に、相手を思いやることも忘れてはならないのです。時には一歩引いてみるのが、人間関係を円満にする秘訣です。ことに夫婦の間では、ついムキになってし

まうこともありませんが、ちょっとした意地の張り合いが、取り返しのつかないことになるかもしれません。

愛情がなくなったら別れよう

印象的な切れ長の瞳に、クラシックバレエで鍛えたスラリと長い手足。高校時代にモデル事務所にスカウトされ、大学時代はアルバイト感覚でモデルやドラマのエキストラなどの仕事をして

いたという美咲さん(仮名)。卒業後は生命保険会社に入社し、現在はコンプライアンス部門で仕事をしています。結婚相手の宗太さん(仮名)は180cm近い長身で、サッカークラブチームから強豪高校に進学、インターハイ準優勝という経歴の持ち主。大学卒業後は、スポーツ用品メーカーに勤務しています。

二人は友人の紹介で出会い、すぐに意気投合。3年ほどの交際期間を経て結婚しました。モデルのような美男子美女で、人がうらやむほどのカップルでしたが、それぞれに自分の趣味があり、自分だけの時間も大切にしたいというから、結婚時に「どんなこともお互いが平等で、お互いのやりたいことには干渉しない」と約束。さらに、「どちらか一方の愛情がなくなったら別れよう」という約束もしていました。「私の両親は私が高校を卒業した時に離婚したのですが、それまではケン

カばかりだったし、夫の両親は仮面夫婦で、家の中の雰囲気がよく嫌だった。だから、愛情がないのに無理して一緒にいるのはやめようって、約束したんです」と美咲さん。

結婚から2年ほどは夫婦二人だけの生活を楽しみ、美咲さんは31歳の時に第一子を出産。さらにその3年後に第二子出産。一男一女に恵まれ、夫婦共に仕事も順調。まさに絵に描いたような幸せな家族…のはずでした。

押し付けが、家族のためか

長男が小学校4年生、長女が小学校1年生になった頃、長男の中学受験をどうするかで夫婦の意見が対立。本人は受験に乗り気ではなかったようですが、「子どものために最善と思う道筋を作るのが親の務め」という美咲さんと、「本人の意志が最優先」という宗太さん。実は、それまでも夫婦の

意見が食い違うことがあったそうですが、そのたびにちゃんと話し合っただけで決ってきたと、美咲さんは言います。けれど、夫の宗太さんに聞いてみると、ちよつと話が違うようです。

「子どもの習い事や、家族旅行の行き先、日常のちよつとしたこと、夕食に何を食べるかといったことなど、何でも話し合っただけですが、すべてを決めているのは美咲です。彼女は言い出したら引かないというか、自分の主張を曲げることがないので、こちらが引かざるを得ないんです」と宗太さんは言います。

美咲さんは「家族のためにいいと思うことを言うだけ」と言うのですが、宗太さんは「自分の考えを押し付けてくる」と感じ、疎ましく思っていました。同時に美咲さんも、自分の考えに素直に同意してくれない宗太さんに、イライラを募らせていたのです。また、「夫も家事や育児に手を貸し

てはくれましたが、最低限これだけというレベルで、基本的には自分の仕事や趣味優先の生活を変えませんでした。結局、私は子ども最優先で次に家事、仕事。家の中で、私に決定権があるのは当然じゃないですか」と

美咲さん。対して宗太さんは、「確かに育児や家事の負担は美咲のほうが大きいと思います。でも、僕が趣味優先なんてとんでもない。釣りだつてスノボだつて家族で出掛けています。彼女が娘と一緒にバレエのレッスンや公演を観に行くようになって、その間、僕は長男と留守番です」

長男の中学受験を巡ってはどちらも主張を曲げぬまま。意地の張り合いのようになっていく中、美咲さんは離婚を申し出たそうです。

「教育方針も食い違つて、この先もいろいろ合わないところが出てくると思つたんです。価値観の違いが、つて言うんですか。改めてそれがわかつた

ので、無理して一緒にいるのはやめようと思いました」と美咲さん。

宗太さんは離婚を考えたことはなかったようですが、結婚時の約束もありとくに反論することもなく、離婚を受け入れました。

「FUSUKAがSOSで我々返る」

離婚の手続きを進めるにあたり、問題になったのが親権でした。「子どもは私が育てるから、養育費を出して」という美咲さんに対して、「君が離婚を言い出したんだから、子どもは二人とも僕が引き取る。親にも話してある」という宗太さん。

何度が話し合いをしたものの、夫婦がお互いに自分の主張だけを繰り返して話し合いは平行線をたどるばかり。本来、子どもの問題は子どもの立場で考えるべきことなのに、そんな大切なことさえ見失い、いつしか家庭内別居状

態になっていました。そして、親同士が顔を合わせる度に言い合いをしている家庭の中で、子どもたちの精神状態は不安定になり、長男はちよつとしたことで友達に暴力をふるうようになり、長女は学校に行きたくないといぐずったり、行ってもすぐにお腹が痛いと言って保健室にもなるようになってしまいました。

「学校から呼び出され、ご家庭で何か問題はありませんか」と言われて気が付きました。私も夫も自分の言いたいことばかり言い合っていて、子どもたちの気持ちをないがしろにしていたんです。調停の申立も考えていたのですが、このまま離婚しても子どもたちの心に傷が残ってしまうと思って、改めて夫と話し合いました」と美咲さん。

お子さんたちの必死のSOSが二人の心を動かしたのでしょうか。宗太さんと美咲さんは冷静さを取り戻し、現在は休戦中。

宗太さんは「美咲が言うこともわからないわけじゃない」と言い、美咲さんも「夫が家族のことを第一に考えていてくれることはわかりますし、夫の言っていることも理解はできるんです」と互いに歩み寄りを見せしており、関係修復の可能性も見えてきた様子。焦らず、ゆっくりと二人の関係を見直していつてほしいと思います。



●おかの あつこ

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士課程前期修了。結婚・離婚・再婚・恋愛など、男女に関する相談全般を手掛けるライフアップカウンセラーとして活躍中。自身が学び、お相手探しもできるウェルアッププランナーや幸せのお手伝いをするマリッジカウンセラー、離婚カウンセラーの講座がOLや主婦に人気。創立16周年を迎えるNPO法人日本家族問題相談連盟の理事長も務める。【近況】少し前に熟年離婚がブームのようになり、「卒婚」という言葉まで生まれて相談も増えましたが、本当に離婚をする必要があるとは思えない方も多いのです。「離婚して後悔する前に、じっくり考えて！」と言いたいですね。